

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

潜在的な地域資源を創造的に活用するリーダー的人材養成計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

網走市

3 地域再生計画の区域

網走市の全域

4 地域再生計画の目標

(1) 地域の概要

網走市は北海道の北東部に位置し、オホーツク海に面する、面積 471.00 平方キロメートル、人口 39,827 人（平成 21 年 1 月 1 日）のまちである。網走という地名は、一般的に「ア・パ・シリ」（我らが見つけた土地）、「アパ・シリ」（入り口の地）、「チバ・シリ」（幣場のある島）などのアイヌ語に漢字をあてたものとされている。

また、気候は亜寒帯に位置しているが、年間を通して降雨量・積雪量は少ないという特色を持ち、全国屈指の日照率（平年 42%）を誇る。

網走市の産業は、北海道特有の大規模農業及び豊かな漁場を有するオホーツク海漁業と、流氷や知床世界自然遺産を背景とした観光業が盛んである。各産業の概要は以下のとおりである。

農 業：網走市の農業は、日本でも最先端の大型機械を導入した大規模農業が展開され、営農集団組織による畑作三品（麦類・馬鈴薯・てんさい）を中心とした農業が展開されている。総農家戸数の 80%が 20 ha 以上の大規模経営であり、畜産物を含めた農業生産額は、平成 19 年度は 255 億 5,400 万円に達している。

水産業：網走市の漁業・水産業は、世界三大漁場のうち、北西太平洋漁場の一つであるオホーツク海に面するという利点を生かして、道内屈指の水揚げ・生産高を誇る。網走市の平成 18 年の総漁獲量は 5.3 万トンであり、漁業・水産加工業ともに生産額が 100 億円を超えている。また、網走市域には網走

湖、能取湖、藻琴湖、濤沸湖、網走川の内水面があり、これらから水揚げされる内水面漁業の生産額は全道の約 8 割を占めている。

観光業：網走市の観光業は、阿寒国立公園や世界自然遺産に登録された知床国立公園が隣接する広域観光圏の拠点を形成しており、また市内にも「博物館網走監獄」や「オホーツク流氷館」など多くの観光資源となる施設を有している。観光客入り込み数は 167 万人（平成 19 年度）に達しているが、うち市内の宿泊者数は 50 万人となっている。地域資源を活かした網走観光の魅力をさらに高めるとともに、体験型・滞在型観光の推進から観光客の拡充を目指している。

（２）地域の課題

前述のように、網走市の基幹産業である農業、水産業及び観光業を始めとした産業基盤強化は、地域の安定的な運営には欠かせないまちづくりの基本である。特に第 1 次産業である農業と水産業については、これまでの原料供給及び一次加工から付加価値の高い新製品開発（高次加工）と販路の多様化が地域の課題となっている。

また、最近では公共事業削減などの影響により、網走市の雇用を支えてきた建設業を中心に厳しい経営環境下にある事業所が多く、雇用面では若年層の新規就業者数が減少し就業環境の悪化も懸念されるなど、地域経済に大きな影響を及ぼしている。さらに網走市の人口は平成 20 年度には 4 万人を割り込むなど減少を続けている。

こうしたことから、雇用を支えている産業の事業量の確保や新産業（事業化・起業化）の創造の可能性も含め幅広い産業分野において支援態勢を構築しながら、地域の活性化を目指すことが求められている。

網走市では、これまで地域産業の活性化のため、起業化や事業化に向けた調査研究に対する支援のための「事業化等スタートアップ支援事業」や、新製品・新技術開発や商品化の取り組みを支援する「新製品創出支援事業」等により、市内の意欲ある事業者に対して支援を行ってきた。また、販路の確保や拡大までを含めた総合的な支援を講ずることがより効果的であると考え、平成 18 年度からは新たに「ものづくりフォローアップ事業」を展開するなどサポート態勢の充実に取り組んできたところである。

これらの支援制度に加え、販路開拓やマーケティング能力を有する専門的人材の養成を図ることにより、網走市の潜在的な地域資源を活用した新製品開発や事業化の促進につなげ、地域の産業振興を目指すことが求められている。

（３）今後の取り組み

網走市では、こうした地域経済を取り巻く環境が大きく変化していることに対応するため、平成 19 年度に策定した「網走市総合計画（2008 年～2017 年）」に基づき、地域の特性を生かした地域経済の活性化と雇用機会の拡大とともに、にぎわいと活力にあふれるまちづくりを目指すものである。

また、東京農業大学が実施予定の科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」プログラムにより、平成 21 年度から平成 25 年度までに、網走市の地場産品を有効活用しながら、新製品等のものづくりから産業振興を目指すことのできる地域のリーダー的人材の養成を目指すものである。

なお、本再生計画の実行により、網走市における新製品等の開発の面において 6 品以上の商品化を目標とする。また、東京農業大学が実施予定の科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」プログラムとして 5 年目の事業終了時に 40 名以上の事業修了者を地域に輩出することを目標とする。

5 目標を達成するために行う事業

5-1 全体の概要

本計画は、網走市でこれまで行ってきた「ものづくり」に関する取り組みと、東京農業大学が実施予定の科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」プログラムを連携させることにより、地域産業の課題である地場産品の高次加工や販路開拓・マーケティング能力の高い人材の養成を図り、地域産業の活性化を目指すものである。具体的には、次の各事業を行う。

(1) 事業化等スタートアップ支援事業

市内中小企業者等が行う初期段階の研究開発や起業化のアイデア・プランなど、新たな展開を図るためのきっかけづくりを支援することにより、その後の具体的な研究開発・設備投資、起業化へのステップアップに結びつけ、地域経済の活性化と雇用の創出に結びつける。

(2) 新製品創出支援事業

市内中小企業者等が行う新製品・新技術開発等に係る事業、並びに商品化事業を支援することにより、多様な地域特産品の創出を図り、新産業の創造など地域産業の活性化を図る。

(3) ものづくりフォローアップ事業

市内中小企業者等が概ね最近 3 ヶ年に製造した新製品等について、ものづくりに対する解決や販路拡大に対する必要なフォローアップを行うことにより、製品（商品）力や企業力の向上を図る。

(4) 新製品等プロモーション支援事業

市内中小企業者等が製造した新製品・新商品等に対して、マスメディア等を活用した広告宣伝等の支援を行うことにより、企業や商品に対する認知度の向上と販路拡大を図る。

(5) ニュービジネス研究支援事業

市内の建設業において、経営改善、内部強化、新分野・周辺分野進出を目指す企業にとって、経営革新・技術革新に役立つ、生きたノウハウを学ぶための支援を行うことにより、経営体質の強化や企業間連携、さらには新分野進出・経営の多角化についての研究のために、情報の共有と既存事業と結びつけた事業展開を実施するものである。

(6) オホーツク網走ブランド創造会議

網走市にある優良な地域資源について、行政と民間事業者、そして研究機関が連携しながら、個々の資源が潜在的に持つ発展可能性について研究や検証を行い、効率よく全国へ情報を発信する体制を確立し、戦略的なオホーツク網走ブランドを創出することを目指すために、情報の共有と連携した事業展開を実施するものである。

(7) 東京農業大学と連携した人材養成プログラムの構築及び運営

本市に所在する東京農業大学生物資源開発研究所オホーツク実学センターと連携し、地場産品からの「ものづくり」ができるリーダー的人材を養成するためのプログラムを構築し、そのサポート態勢を築く。

(8) 人材育成事業運営委員会の設置

本事業全体の統括を目的として、事業目標、推進体制、進捗状況、成果などを制定・管理する「人材育成事業運営委員会（構成員：東京農業大学、網走市、網走支庁、JA、漁協、商工会議所、観光協会、消費者協会、青年会議所など）」を設置する。

(9) 事業化・商品化推進タスクフォースの設置

プロジェクトの運営、管理、評価、予算確保、事業化、商品化、PR活動などについての的確な指導と助言を行う「事業化・商品化推進タスクフォース（構成員：東京農業大学、網走市、財団法人オホーツク地域振興機構、乳酪館、北海道立オホーツク圏地域食品加工技術センター等）」を設置する。

(10) 地域産品活用セミナー（シンポジウム）の開催

網走（オホーツク）の地場産品の有効活用に向けて、「地域産品活用セミナー（シンポジウム）」を開催し、現在の活用状況、潜在的資源の有効活用に向けた課題等について検討を行うセミナーを東京農業大学の「地域再生人材創出拠点の形成」プログラムと連携して行い、地域への情報発信を継続的に行う。

上記の（1）から（4）までは、従前より行われてきた事業であり、（5）か

ら（６）については、人材育成の視点を取り込んだ新たな事業で、網走市が主体的に展開していくものである。

また、（７）から（１０）の事業は、東京農業大学が実施予定の科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」プログラムの関わる事業として、網走市と連携して東京農業大学が展開する事業である。具体的には、人材養成のための委員会等設置やセミナー開催等により情報発信を行い、地域の人材養成のための基盤を構築する。

本計画では、これらの事業をベースとして、東京農業大学が実施予定の科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」プログラム等との連携により、それぞれの事業に求められるサポート態勢の見直しや強化を図りながら、地域産業の活性化を目指すものである。

5-2 法第5章の特別の措置を適用して行う事業

該当なし

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

① 支援措置番号及び名称

【B0801】 科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」プログラム

② 地域再生人材養成ユニット名

「オホーツクものづくり・ビジネス地域創成塾」

③ 人材養成ユニット設置予定機関

東京農業大学 生物資源開発研究所 オホーツク実学センター

④ 連携を行う自治体の名称

網走市

⑤ 実施を希望する期間

平成21年7月～平成26年3月まで

⑥ 事業概要

オホーツク海に面する網走市は、農産物、水産物等の資源が豊富に存在する地域である。これらの地域資源を最大限に活用するためには、地場産品の高付加価値化の実現が不可欠である。

本事業では、網走市と東京農業大学との連携により地場産品を利用した新製品開発や事業化に関連する知識の修得から技術力・創造力を養い、高品質でかつ「売れ筋」

の地域ブランド商品づくりによって、地域の産業振興を担う地域のリーダー的人材“現代の榎本武揚”を養成しようとするものである。

⑦ 総事業費

176 百万円（5 年間累計、間接経費を含む）

5-3-2 その他の関連事業（網走市の独自事業）

（1）地場水産物の利用普及に関する取り組み

将来の網走市の水産業・水産加工業のあり方、水産物ブランド化を進めるため、「おさかな委員会」において地場水産物の利用普及に関する事業を検討し、取り組みを実施するものである。

（2）物産販路拡大に関する取り組み

国内の交流都市における物産展や道外百貨店で開催される北海道物産展において、網走市の特産品を広く宣伝紹介し、道外への販路拡大及び消費動向等の情報収集やバイヤーへの網走製品の紹介、PR のほか、流通業界・ホテル・飲食業界等に対し、商品の展示・試食会を通じた商談会の開催などを行うことにより、網走市の農水産加工品等の物産販路拡大を図り、地域産業の活性化に向けた取り組みを実施するものである。

6 計画期間

認定の日から平成 26 年 3 月末まで

7 目標達成状況に係る評価に関する事項

本計画の目標達成に関しては、計画終了直後の平成 26 年度において、「4 地域再生計画の目標」に記載されている新製品等の開発商品数と東京農業大学が実施予定の科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」プログラムにおける地域に輩出した事業修了者数の数値目標について、達成状況の評価を行う。

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

該当なし